

平成30年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成31年1月22日開催 やまと会議室

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき平成26年度から5年間に実施した、4つの大課題、12の中課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
石田裕彦	奈良県指導農業士会会長
重岡 成	近畿大学 前農学部長
鶴木千里	前奈良県消費生活審議会委員
山本 尚	奈良県農林部長
山下理恵子	奈良県指導農業士会前会長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	優良品種の育成	ゲノム育種等による優良品種の育成	3.8	3.1	3.3	10.2
		マーカー遺伝子の同定は評価する。系統選抜で得られた開花しない3株でのこの遺伝子の発現の有無を確認すること、そして実際に開花しないことが根の生育に大きく影響することを明確にすることを期待する。研究の継続により優良な株が出てきたことは評価できる。安定した育種に繋がって欲しい。				
	生薬以外への利用に向けた生産技術の開発	トウキ葉の安定生産技術の開発	3.7	3.3	3.1	10.1
		新しい特産野菜となることを期待。トウキの根と葉の収量との相関性が明確に示されたとは思えない。冬期における安定的な収穫のための植物工場の栽培については、コスト面も含めて更なる検討が必要であろう。				
	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	3.7	3.0	3.0	9.7
		宇陀地域で栽培実績が上がることを期待。3品目について、各々具体的に何を最終目標として、どこまで安定的多収量を目指すのかを明確にし、栽培のマニュアル化を示すべきである。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計	
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均		
評価委員の意見							
優良品種 の育成	商品性の高い新たな イチゴ品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用 品種の育成	4.3	4.0	4.1	12.4	
		奈良イチゴが全国区になることを期待。順調に系統選抜が出来ていることは評価に 値する。高級品については、それらの生産コストおよび販売先の拡大などが今後の 問題と思われる。育種は時間がかかるものだが、H25から始めてここまでの成果は 驚いた。現地試験と生産者の評価が楽しみ。ケーキ店向きに有利に販売できると良 いが、ケーキ店＝加工用で安い方が良いというようにならないか心配。					
	産地間競争に打ち勝 つキク品種の育成	気象変動に左右されない安定した開花特 性を持つ小ギク品種の育成	4.4	4.2	3.6	12.2	
		端境期の安定供給と需要拡大での取り組みは、順調に推移していると思われる。8 月及び5月での品種登録、その後の育成そして県産としての普及に努めてほしい。 安定生産につながる技術で、これからの普及に期待する。					
		遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品 種の育成	3.8	3.2	3.2	10.2	
	抵抗性の評価法の確立は評価できる。抵抗性系統の育成・選抜をより積極的に押し 進めるべきである。産地として安定して生産し続けられる技術の1つとして抵抗性 育種は大切である。						
	甘柿のない時期に出 荷できる甘柿品種の 育成	交配による新品種候補の作出と、遺伝子 解析による10月下旬～11月上旬に出荷で きる甘柿の早期選抜	4.2	3.0	3.0	10.2	
		奈良の柿のブランド力アップに期待。得られた2品種の有望株の育成は、可能とな りつつあるが、これらの商品として価値を、どこまで明確にできるかが鍵となる。 奈良の柿は自慢できる産物なので、和歌山に負けないで頑張りたい。					
	遺伝資源の保存と活 用	奈良オンリーワン酒米品種の育成	3.8	3.0	3.2	10.0	
		系統選抜までは評価できるが、これらの系統が醸造に真に適しているかが、本研究 の成果に大きく影響する。					
奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保 存と活用		4.2	3.5	3.4	11.1		
奈良特産、大和野菜などの遺伝資源の保存と活用は、地域活性および地産地消の立 場からも重要であるが、得られた解析データを、いかに迅速かつ効率的に公表し、 それらを有効活用するシステム作りが急務である。							
加工商品 の開発と 加工技術	イチジクなど奈良オ ンリーワン加工品の 開発	奈良彩りドレッシングの開発	3.9	3.8	3.2	10.9	
		彩りドレッシングがレストラン等で活用されることを期待。クロロフィルとアント シアニンの色調は、魅力あるバランスとなっている。今後は保存の環境（温度、明 暗など）、そして確固たる商品化に向けての努力を期待する。5℃で保存となると 常温で保存できるものとは違った視点での商品の位置づけが必要。					
		糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした 「特定保健用食品」等新商品の開発	3.9	3.0	3.0	9.9	

カフェイン の研究	機能性成分に着目し た新商品の開発	商品としての実用化は評価できる。我々が納得できる、柿タンニンの機能性の更なる研究成果（科学的根拠など）を期待する。「特保」に至っていないので達成状況の評価は低いかもしれないが、柿の健康イメージのアップに繋がっている点は評価できる。				
		食品添加用粉末茶とそれを用いた機能性食品の開発	3.5	3.0	2.8	9.3
		カフェインの低減化、メチル化カテキン含有の開発は、ある程度成果が得られたが、開発・利用の視点からは、インパクトの弱い成果となった。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計	
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均		
評価委員の意見							
革新的な 生産技術 の開発	脱化学農薬！ 天敵 利用技術の開発	地域や作物に応じた土着天敵活用技術の 開発	3.7	2.4	2.4	8.5	
		オオタバコガとクモ頭数の因果関係が認められなかったのは残念であるが、可能であればクモ類も含めた他の天敵の調査も、さらに検討がされることを期待する。必要性は評価するが、技術という所には遠いと感じる。農薬も含めた有効な防除体系を考えるべき。農薬を減らせるのは良いことだと思う。					
	耕作放棄地の再生と 利活用技術の開発	土質に合った作物選択と水分管理技術の 確立	3.7	3.0	3.0	9.7	
		耕作放棄地の再生のための作物栽培試験は、昨年からの継続として順調に推移しているが、迅速かつ適正なマニュアル化と公表が急務である。特に新規就農者や他の農家の土地を借りる場合など、分からない点が多く、この課題の情報は必要であり、評価したい。身近にも新規に田を借りて野菜を作ろうとする話があるがうまくいかないことがあると聞いているので期待している。					
	奈良特産品の 高品質・安定生産 技術の開発	チャの早期成園化技術の開発	4.0	3.7	3.1	10.8	
		最終年度として、成園化の3年間の短縮は評価に値するが、得られた成果に基づくマニュアル化が急務である。改植は必要だと思うので、少しでも早く成園になるような技術として普及していただきたい。					
		日持ちの保証ができる「奈良の花」品質 向上技術の開発	3.8	3.2	3.2	10.2	
	終了年度として、花卉の日持ち効果、ホルモン剤、エチレン阻害などの効果は評価できるが、これもそれらの成果を公表・マニュアル化することが急務である。						
	奈良にふさわしいパ イプハウス雪害対策 技術の開発	雪下ろし技術の開発	3.8	3.1	3.3	10.2	
		マニュアル化による、実質的な普及効果を期待する。特別な物ではない資材を利用している技術で、すぐに実用化できると思う。普及に繋げて欲しい。					
脱化学農薬！ 微生物 利用技術の開発	土壌への定着性を高めた微生物による土 壌病害防除技術の開発	3.4	3.0	3.2	9.6		
	この1年での成果としては、定植時1回で効果が見られることは興味ある結果である。継続研究として、納豆菌の微生物農薬としての利用を確固たるものとするためには、より魅力ある、明確な成果を期待する。連作せざるを得ない場合、土壌病害は深刻な問題。有効な防除法の確立に期待する。						
女性に優しい農業 機械の開発	女性に優しい農業機械の開発	4.0	3.2	3.2	10.4		
	女性の就農者支援の視点からそれぞれの成果が順調に推移しているようであるが、特にアシストスーツでは、最終的なコスト面も重要な問題となる。体が弱ってきて、女性一人でも農業ができるよう、期待している。防除が簡単になれば長く農業ができる。アシストスーツも安価になって、進歩して欲しい。						